

Syllabus Id	syl-112015		
Subject Id	sub-1120030		
作成年月日	20110326		
授業科目名	哲学 Philosophy		
担当教員名	野澤正信		
対象クラス	全学科5年生		
単位数	2履修単位		
必修/選択	必修		
開講時期	H23通年		
授業区分	人文・社会科学・語学等		
授業形態	講義		
実施場所	5学年各クラスHR		
授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)			
<p>哲学とは「愛知」、知を愛し求めることで「知の探究」である。本教科ではディベートによって学生が自ら「知の探究」を行う。すなわち、さまざまに意見が分かれる現代の諸問題について、学生が自ら想像力を駆使して解決に必要な情報を集め、自分独自の意見を実証的に構成し、それを周りの人に論理的に説明し説得する力を身につける訓練を行う。</p> <p>目的は、多面的考察力と問題解決能力、及びバランスのとれた倫理観の養成である。ディベートでは現代社会のさまざまな難問を扱う。これら諸問題はどれも明確に定義されていない。学生は、そのような漠然とした問題を多面的に考察し、議論できる具体的な形に設定しなおし、打開策を実証的、論理的に構成し、周囲の人に明解に説明することが求められる。この体験を通して問題解決へ導く確実な知を実証的・論理的に構成し議論する方法を修得するとともに、科学技術の安全で平和な利用をめざす倫理的な態度を育むことが本教科の目的である。</p>			
準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)			
地理、歴史			
学習・教育目標	Weight	目標	
	◎	A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
		B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
		C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
		D	国際的な受信・発信能力の養成
		E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力
A 漠然とした問題を自ら明確に定義して異なる視点から多面的に考察できる力の養成			
学習・教育目標の達成度検査			
<ol style="list-style-type: none"> 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度内6テーマについて目標達成度試験(小論あるいはプレゼンテーション)によって行う。 プログラム教科目の修得と目標達成度試験(小論あるいはプレゼンテーション)及び学生自身による自己評価の合格、をもって当該する学習・教育目標の達成とする。 目標達成度試験(小論あるいはプレゼンテーション)の実施要領は別に定める。 			
授業目標			
<ol style="list-style-type: none"> プログラム目標に合致した学科目標: 現代社会の諸問題について多面的に考察し、判断根拠となる情報を的確に集め、根拠に基づく説得力のある議論を構築できること 学科目標に合致した授業目標 <ol style="list-style-type: none"> 一つの問題を異なる視点から評価して多面的に考察できること。 与えられた漠然とした問題を自ら考えて解決可能な形に定義しなおす能力をもつこと。 適確な調査によって問題解決に必要な資料を集められること。 収集した情報を活用して実証的、論理的に議論やレポートが構成できること。 			
授業計画(プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できます。)			
回	メインテーマ	サブテーマ	参組
第1回	前期オリエンテーション	プログラムの学習・教育目標・スケジュール・評価方法・基準等の説明	
第2回		哲学とは何か(愛知とソクラテスの方法) ディベート・テーマ解説と選択	
第3回		ディベート・レポートの方法の解説と初回ディベートの分担決定	
第4回	1 エネルギー問題	概要説明1 エネルギーと環境	
第5回		概要説明2 科学技術と生活	
第6回		「原子力発電の是非」ディベート	
第7回		前週ディベート総括と次回分担決定・哲学の方法(プラトン)	
第8回	2 税金問題	概要説明1 市民社会と税制	
第9回		概要説明2 国家財政と福祉	
第10回		「消費税税率見直しの是非」ディベート	
第11回		前週ディベート総括と次回分担決定・哲学の方法(デカルト)	
第12回	3 裁判員制度	概要説明1 司法への市民参加	
第13回		概要説明2 多数決原理とプラトン原理	
第14回		「裁判への市民参加の是非」ディベート	

第15回		前週ディベート総括・哲学の方法(ベーコン)	
第16回	後期オリエンテーション	後期ディベートテーマ解説・前期評価解説	
第17回		後期ディベート担当テーマ選択と次回ディベートの分担決定	
第18回	4 国際関係問題	概要説明1 日本の産業構造と輸出入	
第19回		概要説明2 鉱工業製品と食糧生産	
第20回		「TPP加盟の是非」ディベート	
第21回		前週ディベート総括と次回分担決定・哲学の方法(ヴィーゴ)	
第22回	5 食糧問題	概要説明1 遺伝子操作と環境	
第23回		概要説明2 GM種と食糧危機	
第24回		「GM食品の是非」ディベート	
第25回		前週ディベート総括と次回分担決定・哲学の方法(ニュートン)	
第26回	6 死刑問題	概要説明1 国際社会と日本の立場	
第27回		概要説明2 人権と刑罰	
第28回		「死刑の是非」ディベート	
第29回		前週ディベート総括・哲学の方法(まとめ)	
第30回		1年のまとめ、評価解説、授業アンケート、自己評価アンケート	
課題			
<p>レポート： ディベートで扱う問題についての賛否両論、および概要説明・ディベートでの発表内容のまとめ</p> <p>提出期限： 各ディベート終了2週間後までは減点0。以後、1週遅れるごとに満点の1/20点減点。</p> <p>提出場所： 教室、教員室(管理棟3F)で手渡し。</p> <p>オフィスアワー： 教員室(管理棟3F)において金曜午後2時から5時まで</p>			
評価方法と基準			
評価方法：			
(1)一つの問題を異なる視点から評価して多面的に考察できるかどうかを			
(2)教室での発表・報告もしくはレポートの作成で			
(3)別にネットで公表する評価基準によって判定し			
(4)成績に反映させる。			
(1)与えられた漠然とした問題を自ら考えて解決可能な形に定義できるかどうかを			
(2)教室での発表・報告もしくはレポートの作成で			
(3)別にネットで公表する評価基準によって判定し			
(4)成績に反映させる。			
(1)適確な調査によって問題解決に必要な資料を集められるかどうかを			
(2)教室での発表・報告もしくはレポートの作成で			
(3)別にネットで公表する評価基準によって判定し			
(4)成績に反映させる。			
(1)収集した情報を活用して実証的、論理的に議論を構成し説得力ある説明ができるかどうかを			
(2)教室での発表・報告もしくはレポートの作成で			
(3)別にネットで公表する評価基準によって判定し			
(4)成績に反映させる。			
評価基準：			
概要説明とディベートでのプレゼンテーション 40%、 レポート 40%、 授業態度(ノート) 10%、 学生の自己評価 10%			
教科書等	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。		
先修科目	地理、歴史		
関連サイトのURL	http://user.numazu-ct.ac.jp/~nozawa/nozawahp.htm		
授業アンケートへの対応	演習・レポート・課題の量について指摘があるので、改善につとめる。		
備考	<p>1.提出された課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。</p> <p>2.授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。メールアドレス： nozawa@numazu-ct.ac.jp</p>		